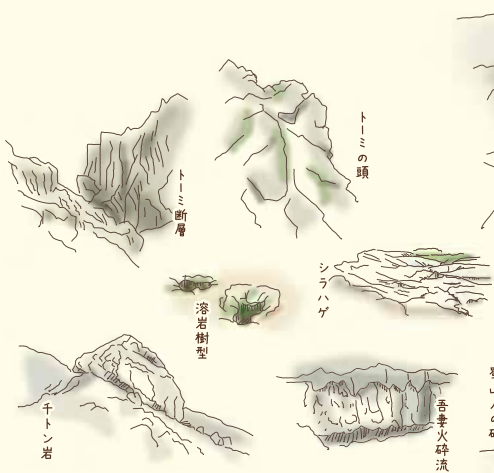




浅間大滝



トミミ断層

トミミの頭

溶岩樹型

シラハゲ

千トン岩

吾妻火砕流

蜀山人の碑

兔押し出し溶岩



鳥帽子・浅間火山群



浅間牧場



第7回



日本ジオパークネットワーク  
関東ブロック大会 浅間山北麓

伝えよう人と大地のものがたり。

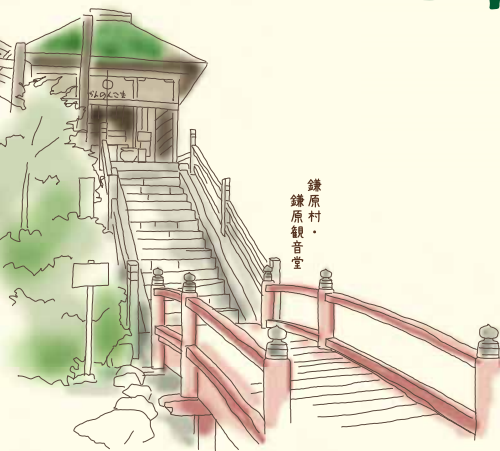
# 大会報告書

2022年9月23日(金・祝)-24日(土)



浅間高原  
しまぐげ園

# Mt. Asama North GeoPark



鎌原村・鎌原観音堂

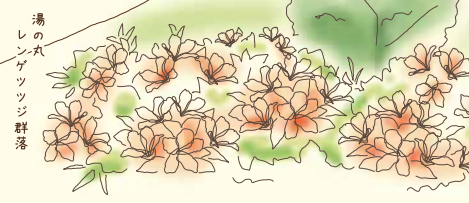


古瀬

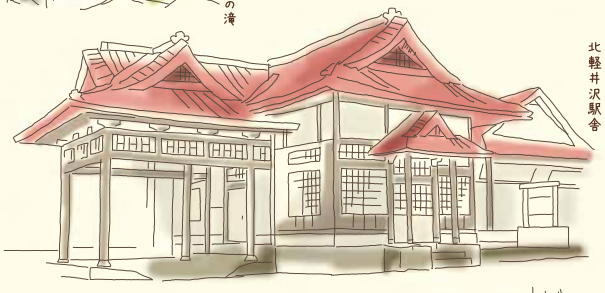
鎌原農場



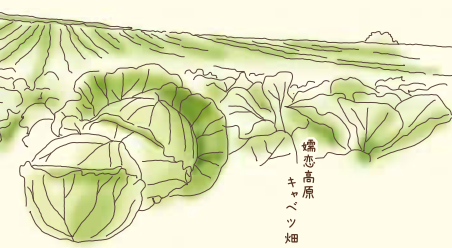
たまだれの湯



湯の丸  
レンゲツツジ群落



北軽電鉄  
北軽井沢駅舎



鎌原  
キャベツ畑

「伝える力」で大地の遺産を未来に届けよう。



六里ヶ原の  
道しるべ観音

## 伝える力で未来をつくる



第7回日本ジオパークネットワーク関東ブロック大会実行委員会  
委員長（嬭恋村長）

熊川 栄

「第7回日本ジオパークネットワーク関東ブロック大会 in 浅間山北麓」が、新型コロナウイルス感染症の影響による2回の延期を経て開催され、無事に幕を閉じました。ご参加くださいました関東ブロック各ジオパークの皆様、ご出演いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

本大会では、地域の宝を未来に継承するための「伝える力」に焦点を当てました。

大会1日目の基調講演では、日本ジオパークネットワーク副理事長の桂雄三氏より、「風土の記憶を辿る」をテーマに、文化財を地球の活動と私たちの暮らしの関わりの中から総合的に幅広くとらえること、過去から学び、未来にいかす視点を持つことの重要性が語られました。また、地元長野原高校の生徒の皆さんによる紙芝居の読み聞かせや、実際に伝える現場で活躍されているジオガイドの皆様によるディスカッションを通して、相手の立場に立って伝えることの大切さを考えました。

2日目は「伝える力」の実践の場として、4つのジオツアーを設けて、浅間山北麓ジオパークの魅力をお伝えしました。

対面することが難しい状況が続く中、人とのふれあいと対話の機会を創りだそうと、ともに考え、話し合い、交流を深めた今大会の経験は、今後のジオパークネットワーク活動の充実強化にきっと役立つことでしょう。

最後に、開催までの長い道のりをともに歩んでくださった全ての皆様に、心より感謝と御礼を申し上げ挨拶いたします。

## 開催概要

- 大会名称 第7回日本ジオパークネットワーク関東ブロック大会 in 浅間山北麓
- テーマ 伝えよう 人と大地のものがたり
- 会期 2022年9月23日（金・祝）-24日（土）
- 大会趣旨 大地の遺産を未来に継承していくためには、その価値をわかりやすく伝える言葉が必要です。本大会では、テーマを「伝えよう 人と大地のものがたり」とし、関東ブロック地域のジオパーク関係者を迎えて、「伝える力」と「ものがたりを組み立てる力」の向上を目指し、ジオパーク活動の質を高めます。  
また、地域の方々とともに大会を作り上げ、地域の価値とともに学び合い、郷土の誇りを育むことに貢献します。
- 主催 第7回日本ジオパークネットワーク関東ブロック大会実行委員会  
（浅間山ジオパーク推進協議会）
- 共催 嬭恋村/長野原町/嬭恋村教育委員会/長野原町教育委員会/浅間山北麓ジオパークガイドの会
- 後援 NPO 法人日本ジオパークネットワーク/吾妻行政県税事務所/FM 軽井沢
- 協力 （一社）嬭恋村観光協会/北軽井沢観光協会/長野原観光協会/川原湯温泉協会

参加人数

9/23

金・祝

## 会場プログラム

81人

会場：長野原町住民総合センター

会場：42人

司会：清水とも子(FM 軽井沢)

オンライン：39人

インターネット同時配信(YouTube)

13:00	開会式
13:20	基調講演「風土の記憶を辿る」
14:15	学校発表
14:50	休憩
15:00	パネルディスカッション「明日に伝える物語」
16:30	関東のジオパークからビデオメッセージ
16:40	閉会式

9/24

土

## ジオツアー

50人

コース-1・2：ヴィラ北軽井沢エルウイング発着

コース-3・4：ホテル軽井沢 1130 発着

ツアー受託：(一社)嬭恋村観光協会

07:45-15:30	コース-1：スカイロケットレイル	12人
08:15-15:30	コース-2：ハツ場ダム・吾妻渓谷	16人
08:20-14:50	コース-3：火山がつくった大地と人々の物語を巡るツアー	10人
08:00-15:00	コース-4：天明噴火で何が起きたか探るツアー	12人

## ジオマルシェ

302人

会場：嬭恋村地域交流センター

09:00-16:00	<p>関東ジオパーク特産品フェア</p> <p>《展示・体験》</p> <p>環境省上信越高原国立公園管理事務所 国土交通省利根川水系砂防事務所 吾妻森林管理署 浅間山麓国際自然学校(クラフト体験) 駒澤大学</p> <p>《物販》</p> <p>gurumi(焼き菓子各種)                      浅間酒造(日本酒試飲) やまきぼし(ロコモコ丼)                      さゆみの会(根付ぞうり等) piggies(焼き菓子各種)                      くらこの会(歴食くろこ) 空とぶスパイス(Geo Curry Bento)              サポーター(かき氷) 浅間高原オープンガーデン(花苗)</p>
-------------	---

9/23

金 祝

## 会場プログラム

会場:長野原町住民総合センター

## 参加人数

会場:42名

オンライン:39名

合計:81名



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場収容人数の上限を100名までとし、会場プログラムの模様はカメラ3台を使用してYouTubeLiveによるインターネット同時配信を行なった。

## 開会式

13:00-13:20

<b>開会宣言</b>	浅間山ジオパーク推進協議会 副会長（長野原町長） 萩原 睦男
<b>主催者あいさつ</b>	浅間山ジオパーク推進協議会 会長（嬭恋村長） 熊川 栄
<b>来賓あいさつ</b>	ジオパークによる地域活性化推進議員連盟 衆議院議員 小淵 優子 日本ジオパークネットワーク 事務局次長 古澤 加奈

## ▽開会宣言

萩原睦男浅間山ジオパーク推進協議会副会長「我々のネットワーク・絆をより深め合う大会となることを願っています」

## ▽開会のあいさつ

熊川栄浅間山ジオパーク推進協議会会長「八ッ場ダム建設に伴って発掘調査が行われた。掘ってみると、縄文時代から今日に至るまで、浅間山の火山堆積物と人間の暮らしの遺物が累々と積み重なって出てきた。浅間山と人間のつながりは深い。浅間山南面の長野県の皆さん、ぜひ私たちと一緒にユネスコ認定を目指しましょう」

小淵優子衆議院議員（ジオパークによる地域活性化推進議員連盟）「皆様には、この地域のすばらしさ、歴史や価値について、学び、気づいて、それを発信していただきたい」

古澤加奈日本ジオパークネットワーク事務局次長「コロナという困難な状況のなか、延期を余儀なくされた大会でしたが、こうして皆さんと集まれたことをうれしく思っています」



萩原睦男浅間山ジオパーク推進協議会副会長より開会宣言



熊川栄会長の主催者代表あいさつ



小淵優子衆議院議員の来賓あいさつ

講演者 桂 雄三 (日本ジオパークネットワーク 副理事長)

文化庁で野島断層の天然記念物指定に関わった。生きるスタンスとしてモノの捉え方を重視しており、「系の中での対象の位置付け」等、9項目を心掛けている。世界で起きている事象の意味や、地球・日本列島に住む私たちの立ち位置を認識することが捉え方の基盤。地質構造上、日本列島は自然災害の多い国。日本は地質・地形のユニットが小さく、短距離で暮らしのスタイルや文化が変わるのが特徴。このようなコンパクトな多様性の中で醸成された文化とそれを伝える文化財がある。文化財の捉え方は風土依存を基本とし、自然と文化を総合的に捉える視点が重要。文化財は、自然と共に生きる知恵、自然と人との関わり方をも伝えている。



演壇に立つ桂雄三氏

図1は、私の文化財の捉え方のイメージ。このプロセスのすべてがジオパークの活動そのものと捉える。温故知新、日本人の自然観を過去から学び、それを未来に生かす視点を重視したい。また、循環する自然界の現状を認識することも不可欠である。

人に伝えることは、人を育てること。特に子どもたちに伝えていくことが未来につながる。



図 1 文化財のイメージ

学校発表

発表者 群馬県立長野原高等学校

生徒会によるスライドを用いた学校の取り組み紹介

長野原町営浅間園での「ジオパーク見学」が紹介された。浅間山の火山活動史、動植物、植生の遷移、岩石などをクイズ形式で楽しみながら学んでいる。

続いて浅間山北麓ジオパークの主要サイトなどを巡る「八ッ場ウォーク」が紹介された。JR 長野原草津口駅を出発し、「やんば天明泥流ミュージアム」で映像や展示を見学、当時の人々の生活や被災の様子など発掘調査の成果を学んだ。その後、移設した長野原町立第一小学校の旧校舎、八ッ場ダム、川原湯温泉と全長 10 kmほどの道のりを巡る。地域理解を深めながら、仲間とともに歩くことによる連帯感や長距離踏破の達成感を味わうことができた。歩きながらゴミ拾いもする。環境やSDGs に向けた行動を意識している。



長野原高等学校 2 年生 女子 5 人 男子 4 人による発表

## 長野原高校図書委員会読み聞かせボランティアによる大型紙芝居「浅間山」の上演

伝統ある大型紙芝居の活動が説明された。今年度は約 40 人の生徒が活動しており、全校生徒の三分の一以上になるとのこと。「浅間山」は 14 作目である。

紙芝居の冒頭でクイズが 2 問出題された。①火山はなぜ噴火するのか。②マグマとは何か。問いかけの後、天明 3 年にタイムスリップ。浅間山は活動が活発な火山で、天明 3 年に大噴火を起こし、災害（天明泥流）をもたらしたことが語られたあと、火山は怖いばかりではなく、生き物の生息環境をつくりだしていることや、人間に農作物や温泉などの恵みももたらしていることが説明された。

タイムスリップして現代に戻り、過去から学ぶこと、それを防災などに役立てることの大切さが述べられ、環境をまもることの重要性がまとめとして語られた。



紙芝居は巻物になっていて、場面により横幅が変わる

## パネルディスカッション「明日に伝える物語」

15:00-16:30

**ファシリテーター** 桂 雄三（日本ジオパークネットワーク 副理事長）

**パネリスト**  
一寸木 肇（箱根ジオパーク推進協議会）  
荒川 和子（筑波山地域ジオパークガイド）  
神戸 百合子（下仁田ジオパークの会）  
古屋 祐之（浅間山北麓ジオパークガイドの会）

**コメンテーター** 古澤 加奈（日本ジオパークネットワーク 事務局次長）

## 「私たちが目指すガイド像 2015in 霧島」8つの項目に関する事前アンケート

2015年日本ジオパークネットワークおおいた大会で示された「私たちが目指すガイド像 2015 in 霧島」の 8つの項目について、アンケート調査を行なったところ、「自分のジオパークだけでなく地球全体を伝える」は、他の項目に比べ、具体的な伝え方をイメージしにくいと回答した割合が高かった。



事前アンケートの分析

## パネリストからの報告・提案

一寸木 肇（箱根ジオパーク）「相手と対話してともに考えよう」

人、事物・現象、地域。様々なことに興味を持っていることがガイドの理想像だと考えている。参加者の思いと意見をいつも笑顔で受け止め、五感を通して対話することが大事だ。またガイドしてほしいと思ってもらえるようなガイドを心掛けたい。

荒川 和子（筑波山地域ジオパーク）「その土地ならではの物語の伝え方」

当地に見られる花こう岩からストーリーを考えてみる。花こう岩は水と関係している岩石だ。花こう岩によって磨かれた水は酒づくりに向く。筑波山地域の酒を味わってほしい。筑波山は成層火山のような形をし

ているが火山ではない。日本に山の付くジオパークが17ヶ所あるが、その中で火山でないジオパークは4ヶ所しかない。

神戸 百合子(下仁田ジオパーク)「わかりやすく興味が持てる工夫」

言葉だけで伝え切れないことを、道具でわかりやすく楽しく伝える工夫について、実践例を紹介する。枕状溶岩、付加帯や逆転層などを解説する際は、ボールやりボン、タオルなど身近にあるものを使って簡易実験するとわかりやすいし、興味を持ってもらえる。下仁田はネギとコンニャクの産地。ご当地感、季節感を演出できるものの利用も考えたい。

古屋 祐之(浅間山北麓ジオパーク)「地域と地球のつながりを伝えるには？」

地域と地球の関りについて考えたい。浅間山麓はなぜキャベツの一大産地になっているのか？まず、浅間山がつくったなだらかな地形がある。これが機械化された大規模営農を可能にしている。それから昼夜の寒暖差が大きいことや、朝霧が立ちやすい気象条件があることでおいしいキャベツが育つ。さらに火山灰土壌である黒ボク土には、水はけ・水持ちが良く、耕しやすい利点がある。これらの条件のすべてに浅間山が関わっている。地域の産業は火山という地球の活動と深くかかわり合って成り立っていることがわかる。

## 総合討論

「私たちが目指すガイド像 2015 in 霧島」をチャートモデル化した。ジオパークは地形・地質から地球の過去を知り、未来を考えて活動する場所だが、まずなによりも現状認識が大事だ。

伝えることは相手がいて成り立つ。一方向ではなく双方向である。わかりやすく伝えるには、専門用語を使うことはなるべく避け、自分の言葉として表現できるとよい。道具を使うとか簡単な実験をすとか目に見えるようにするのも一つの方法である。

参加者の視点を意識してガイドをする。語るのではなく引き出すようにする。参加者に気づかせるガイドを心掛けたい。

ガイドの際に地域の素材を使えば、地域を盛り上げていくことにもつながる。例えば、凍みコンニャクを実験の素材に活用する。そこから地域の商品に発展させていく。ジオパーク活動が地元の加工業、産業に活力をもたらす。

## 講評

古澤：何を伝えたいか、何に気づいてほしいかを意識して伝えることが大事だ。自分事としての気づきがあるか。例えば、ジオパークで大地を目の前にすると、自分がちっぽけな存在であることが自覚できる。これがジオパークの良さだと思っている。そのようなことを参加者に感じてもらえたらと思う。

桂：小さなこと、ローカルなことが実体であり、グローバルは虚構である。ローカルなことを大切に先のことを考える。ガイドとして一番大事なことは、お客さんが納得して気持ちよく帰られることである。



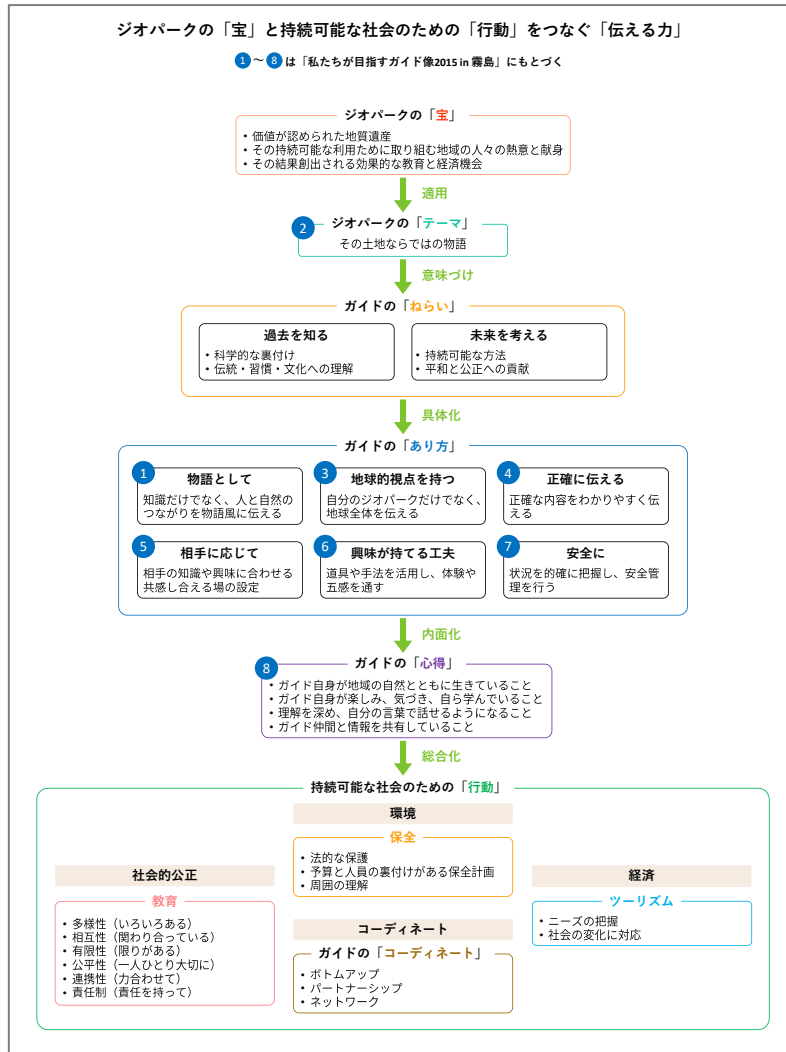
パネリストの皆さん



発表する古屋氏(浅間山北麓)



コメントする桂氏(右)と古澤氏



チャートモデル「ジオパークの『宝』と持続可能な『行動』をつなぐ『伝える力』」

## ビデオメッセージ

16:30-16:40

### 投稿地域

伊豆大島/秩父/銚子/古関東深海盆（構想地域）/那須烏山（構想地域）

伊豆大島、秩父、銚子の各地域および古関東深海盆、那須烏山の各構想地域より、ビデオメッセージが寄せられた。映像を通して、各地のジオパークの特徴と、それらを支えている地質多様性（地質・地形・土壌・気候・鉱物資源などの自然な分布様態）に目が向けられた。

## 閉会式

16:40-17:00

宮前拓朗氏（ジオパーク秩父）から、来年度の日本ジオパークネットワーク全国大会が、関東ブロック担当で開催されることが案内された。

閉会あいさつで、熊川栄浅間山ジオパーク推進協議会長は、「社会の課題を地球規模で考え、我々の足元から行動することが、ジオパークの発展につながる」と述べ、大会を締めくくった。



**ジオツアー** 参加人数  
コース合計:50人

**コース 1 スカイロックトレイル**

伝えるテーマ 安全と環境に配慮しながら伝える 参加人数 12人

**ガイド** 塩野耕治/山本后世/古屋祐之 **サポート** 田村梢

	08:00	09:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
浅間山北麓ビジターセンター								
ホテル軽井沢 1:30								
地域交流センター								
出発	登山開始				昼食	温泉入浴		ジオマルシェ
ガイド								
解散								

浅間山北麓ビジターセンターを基点とするスカイロックトレイルは、全長 5.7 km、標高差約 300mを周回する軽登山コース。浅間山から噴出した溶岩の上を歩きながらその規模や地形を体感できる。国指定特別天然記念物の浅間山溶岩樹型、植生の遷移や垂直分布の様子なども観察できる。

コースは国立公園の特別地域内を通る。貴重な植生を保護するため、コース外への立ち入りを規制している。また、浅間山の火口近くに位置するため、当コースで緊急時対応の研修と実地訓練を受けたガイドの同行、ヘルメットの携行を入山条件にしている。

当日の朝は小雨模様だったが、参加者の意向を確認して催行。途中、参加者 1 名が体調不良を訴え、急きょ離団することになった。ガイド研修で実施してきた緊急時訓練が生かされ、スムーズに下山搬送できた。対応の迅速さを参加者から称賛され、安全に対する対策のあり方について、成果をネットワークで共有してほしいとの声をいただいた。実際のガイド場所で行う実地研修の意義と有用性を再確認したツアーとなった。



火山の地形と植生を解説



難所のはしご場



下山後の記念撮影

コース  
2

ハッ場ダム・吾妻渓谷

伝えるテーマ 科学的に正確な内容を分かりやすく伝える

参加人数 16人

ガイド 嶋村明/浦野安孫/小野薫

サポート 松本夏美

事務局 梅沢祥也

08:00	09:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
ウイラ北軽井沢エルウイング	湖の駅 丸岩	やんば天明泥流ミュージアム	八ッ場道の駅ふるさと館	八ッ場ダム	吾妻渓谷	十二沢パーキング	ウイラ北軽井沢エルウイング
出発	水陸両用バス	館内見学	昼食	堤体見学	散策	バス乗車	解散

本コースは、自然の保護と開発の間で揺れ、完成までに68年もの年月を要した八ッ場ダム、ダム建設に伴い発掘された出土品を展示したやんば天明泥流ミュージアム、長年の侵食作用によりつくられた吾妻渓谷を巡る内容で構成した。

自然と人工物の調和に焦点を当てながら、ダム建設の前後で地域がどう変わったのか、科学的な根拠と数字を示し、それが持つ意味を参加者と対話しながら考えた。

吾妻渓谷での「樹木について」の説明や、八ッ場ダムでの「ダムができてよかったこととよくなかったこと」のガイドはとても興味深かったとの反響があった。今回のガイドは科学的な説明を意識して行なったが、参加者は、地元住民の声が聞けることもツアーの楽しみにしていることが分かった。

アンケート結果では、参加者間でも理解度やガイド内容について個人差が見受けられた。平易な表現と気軽に質問しやすい雰囲気づくりを心掛けたい。



水陸両用バス「にやがてん号」を背景に記念撮影



「湖(みず)の駅丸岩」で記念撮影



ハッ場天明泥流ミュージアム



吾妻渓谷

コース 3 火山がつくった大地と人々の物語を巡るツアー

伝えるテーマ 人と大地とのつながりを伝える

参加人数 10人

ガイド 下谷通/堀川英寛/堀内弥江/松本初恵

サポート 鈴木大貴

事務局 古川広樹

08:00	09:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	
浅間牧場 ホテル軽井沢 130	鬼押し園	特別天然記念物溶岩樹型	キャベツ畑(火山灰土壌)	万座・鹿沢口駅 常林寺	草軽電鉄旧北軽井沢駅舎 応桑諏訪神社	鎌原観音堂	地域交流センター	ホテル軽井沢 130
出発				火砕流台地		昼食	ジオマルシェ	解散

このコースでは、当ジオパーク地域の代表的なサイトをバスで移動しながら見て回り、火山とそこに生きる人々のつながりに目を向けた。

鬼押し出し園では、天明噴火の際に流れてきた鬼押し出し溶岩と鎌原土石なだれについて解説した。鬼押し出し溶岩は粘り気の強い溶岩で、外側が冷やされて固まりながらゆっくり流れてできたこと、鎌原土石なだれは高速で流れ下って麓に大きな被害をもたらしたことを説明、参加者の中で、「人と大地のつながり」という視点が根付き、自分たちの地域でもそのような見方をしてほしいということ伝えた。

浅間山溶岩樹型でティーブレイクをとった。地元産のトウモロコシを振る舞い参加者に喜ばれた。参加者の間に打ち解けた雰囲気生まれ、会話が弾んだ。野外でのティーブレイクは非日常感を演出し、お互いへの信頼を高め合う。参加者にホスピタリティを感じてもらいながら地域をPRすることができれば相互に恩恵がある。

多くの見どころを見て回るため、地形・地質、歴史・文化、おもてなしを各ガイドで分担した。午前の時点で30分ほどの遅れが生じていたが、午後に遅れを取り戻し、時間通りに解散となった。参加者にはお土産として地元でとれたキャベツをお持ち帰りいただいた。

場所ごとのガイドの分担や時間配分など、ガイドとしてのチームワークを磨く機会となった。



鬼押し出し園で、浅間山天明噴火を解説



草軽電鉄旧北軽井沢駅舎



鬼押し出し園で記念撮影



応桑諏訪神社

コース  
4

天明噴火で何が起きたか探るツアー

伝えるテーマ 相手に応じて伝える

参加人数 12人

ガイド 黒岩俊明/宮崎光男

サポート 坂田真央

事務局 本多力斗

08:00	09:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
ホテル軽井沢 1130 黒豆河原		鬼押し出し園	溶岩樹型・風穴 長寿の岩		地域交流センター	鎌原観音堂	ホテル軽井沢 1130
出発 火山荒原			車窓より見学	昼食・ジオマルシェ		災害伝承	解散

本コースは、浅間火山の天明噴火（1783年）による噴出物や、国指定特別天然記念物の浅間山溶岩樹型、埋没した鎌原村の被害や復興、災害の記憶を伝承してきた人々の暮らしなどの内容で構成した巡検型ツアーである。ジオパーク関係者向けに地質的な観察を重視し、火山災害と復興の歩み、その伝承に焦点を当てた。伝えるテーマを意識して、異なるメンバーでグループを編成。各地点で「問い」を提示してグループで検討してもらった。

黒豆河原では前掛火山の地形や植生遷移の様子、溶結した火砕流堆積物などを観察した。溶結した火砕流は溶岩流と間違えやすいが、参加者からは観察に基づいた正しい判断が示され、実力の高さを実感させるツアーとなった。

グループ検討は地質に詳しいメンバーの発言を中心に展開したが、アンケート結果ではジオパークに関わるメンバーでも個人差が大きいことがうかがえた。地点ごとに「問い」を提示して参加者が話し合う方法は「楽しい」との評価が多かったが、「内容の適切性・難易度」については、個人差への配慮が課題として浮かび上がった。



火山活動でできた断崖と風穴



浅間山溶岩樹型で「問い」を提示



黒豆河原で溶結した吾妻火砕流を観察



ホテル軽井沢 1130 前で記念撮影

## ジオマルシェ

会場：嬭恋村地域交流センター

参加人数

302人

嬭恋村地域交流センターにおいてジオマルシェを開催。関東のジオパーク各地から取り寄せた特産品を販売した。

物販ブースは9団体から出店があり、お弁当やお菓子など、浅間山の恵みを使った商品が販売された。展示・体験ブースは5つの機関・団体より出展があった。なかでもクラフト体験は多くの子供たちの人気を集めた。

来場者は300名を超え、ジオツアー参加者や地元の方々と賑わった。

また、ブース出展者の駒澤大学と、鬼押し出し園の協力を得て、風穴で2年間熟成させた日本酒が、夕食交流会で参加者に振る舞われた。



関東ジオパーク特産品フェア



クラフト体験(浅間山麓国際自然学校)



駒澤大学体験ブース「火山豆石ひろい」



名物ジオ団子



上信越高原国立公園管理事務所



吾妻森林管理署



入口に関東ジオパークののぼり旗を立てた



やまきぼし「ロコモコ丼」



郷土食「くろこ揚げ」



浅間高原オープンガーデン(花苗)

## 第7回日本ジオパークネットワーク関東ブロック大会実行委員会

役職名	所属	氏名
実行委員長	推進協議会 会長	熊川 栄
副実行委員長	推進協議会 副会長	萩原 睦男
委員	孺恋村村議会 議長	土屋 幸雄
	長野原町町議会 議長	黒岩 巧
	孺恋村観光協会 会長	岡村 径朗
	北軽井沢観光協会 会長	福嶋 誠
	浅間高原観光協会 会長	村松 哲郎
	長野原町観光協会 会長	櫻井 芳樹
	川原湯温泉協会 会長	樋田 省三
	鹿沢温泉観光協会 会長	佐藤 洋司
	万座温泉観光協会 会長	塚本 亨
	バラギ高原観光協会 会長	渡瀬 達生
	孺恋村教育委員会 教育長	地田 功一
	長野原町教育委員会 教育長	小林 敦子
	孺恋村文化協会 会長	黒岩 優行
	長野原町文化協会 会長	篠原 成昭
	孺恋村農業協同組合 組合長	関 喜吉
	JA あがつま長野原支店 支店長	山本 誠
	万座プリンスホテル 総支配人	塚本 亨
	調査・保全委員会 委員長	嶋村 明
	調査・保全委員会 副委員長	美才治 清浩
	調査・保全委員会 副委員長	松本 智之
	広報・観光委員会 委員長	宮崎 光男
	広報・観光委員会 副委員長	堀川 英寛
	広報・観光委員会 副委員長	黒岩 巧
	教育・防災委員会 委員長	湯本 善太郎
	教育・防災委員会 副委員長	竹淵 俊樹
	教育・防災委員会 副委員長	黒岩 順
	交流部会 部会長	土屋 茂次
	交流部会 副部会長	松本 源
	交流部会 副部会長	黒岩 巧
	全体会部会 部会長	黒岩 俊明
	全体会部会 副部会長	中山 邦男
全体会部会 副部会長	下谷 通	
全体会部会 副部会長	宮崎 光男	
ジオツアー部会 部会長	古屋 祐之	
ジオツアー部会 副部会長	堀川 英寛	
監事	孺恋村商工会 会長	渡辺 栄志
	長野原町商工会 会長	竹内 猶則

## 専門部会

全体会部会	
部会長	黒岩 俊明
副部会長	中山 邦男
	下谷 通
	宮崎 光男
部会員	黒岩 順
	黒岩 秀二
	斎藤 忠相
	下谷 博
	竹淵 俊樹
	英 和男
	堀内 弥江
	松本 初恵
	松本 祐樹
	湯本 善太郎

交流部会	
部会長	土屋 茂次
副部会長	黒岩 巧
	松本 源
部会員	青木 清
	市場 務
	内田 洪三
	奥田 愛美
	小森 克敬
	田中 佑
	土屋 幸雄
	前川 みす子
	眞下 豊

ジオツアー部会	
部会長	古屋 祐之
副部会長	堀川 英寛
部会員	浦野 安孫
	小林 勝太郎
	嶋村 明
	須崎 安伸
	橋詰 元良
	干川 まゆみ
	松本 智之
	美才治 清浩

## 事務局

所属	氏名	担当
孺恋村交流推進課 課長	宮崎 貴	
孺恋村交流推進課 課長補佐	梅澤 祥也	
長野原町企画政策課 ジオパーク推進室長	塩野 耕治	全体会部会
推進協議会事務局 専門員	古川 広樹	全体会部会
推進協議会事務局 主任	土屋 智美	交流部会
推進協議会事務局	本多 力斗	ジオツアー部会

## 運営協力

軽井沢倶楽部ホテル軽井沢 1130  
 北軽井沢ヴィラエルウイング  
 鬼押し出し園  
 FM 軽井沢

コーエイ株式会社  
 有限会社ライブフォー  
 株式会社アルファー企画

## Q1 会場プログラムの満足度

満足度:83%

大会全体 満足 14 やや満足 11 普通 5 やや不満 0 不満 0

- 大会テーマ「伝える力」がよかった。(関心事として具体性あり)
- 規模が大きすぎず丁度よい(臨場感、連帯感がある、眠くならない)
- 「伝える」ということのヒントを数々得られた。
- 参加者・関係者間のコミュニケーションがとれる時間があればより良いと思いました。
- 上から目線で、知識を披露するのではなく、参加者目線で自ら考えて答えを出させる手法が素晴らしい。
- もう少し、一般にも楽しめる、もしくは参加しやすい内容が望ましい。
- ジオパークにおけるガイドと伝え方の重要性を知りました。
- 宿泊施設やツアー内容、何より浅間山北麓ジオパークの皆様のおもてなしの心に感動しました。
- 浅間山の雄大な自然を見られた。
- 関東ブロックの色々な地域のジオパーク情報を伺えて、勉強になりました。

満足度:71%

基調講演 満足 7 やや満足 14 普通 6 やや不満 3 不満 0

- 地形や地質の話ではなく、ものの考え方、見方といった内容だったのがとても興味深かったです
- シュールな基調講演は宇宙スケールの視点で見る、俯瞰してみるものの大切さを感じた。もっと聴いてみたかった。温故知新。
- マクロではなく、グローバルな地球との関連性で説明をする重要性。
- 内容は面白かったが講義のようだった。「一方的に聞く」話し方ではなく、興味を持って聞きやすい話し方、資料の示し方だと、若い世代やその分野に詳しくない人も聞きやすくなると思う。
- 私の勉強不足が原因ですが、少し難しい部分がありました。
- 内容の大事なことはわかりましたが、ご自分でおっしゃっていらしたように早口でついていくのに苦労しました。
- 内容がやや細かった。
- ジオパークは各地域ならではの多様性(文化的な歴史、災害史など)があります。その多様性を尊重し、それを活かしたジオパークづくりが大切だと改めて学ばせていただきました。地球の成り立ち、地質、気候、歴史・・・喜しすべてがジオパークと言うのはごもっともですし、それらを活かしたジオパーク作りは大切です。しかしジオガイドさんが短時間ですべてを網羅して見学者にお話するのは難しい(内容が多すぎてテーマがふれてしまう)とも感じました。



満足度:84%

学校発表 満足 14 やや満足 13 普通 3 やや不満 0 不満 0

- 高校生頑張れ、胸を張れ、内容はよかったよ。
- 巻紙式の紙芝居は楽しいです。生徒が地域を見直し、考える力や、今後を考える（貴重な場所の再確認）方向に継続していってもらえると嬉しいです。期待しています。
- 高校生の大型紙芝居、とてもよくできており、地域に根差した活動は素晴らしかった。
- よく頑張っていたと思う。せっかくの発表なので、顔があと少し明るく映るとよい。
- 高校生の一生懸命さが伝わってきました。
- ジオパークエリア内での清掃活動、ウォーキングにトライ、紙芝居の読み聞かせなど、高校生の皆さんが、地域のジオパークに愛着を持ち、自分たちは何が出来るか工夫しながら取り組んで姿にとても感心しました。若い世代が地域にあるジオパークに関心を持ち、積極的に取り組む教育が出来ているのだと思います。

満足度:89%

パネルディスカッション 満足 17 やや満足 11 普通 3 やや不満 0 不満 0

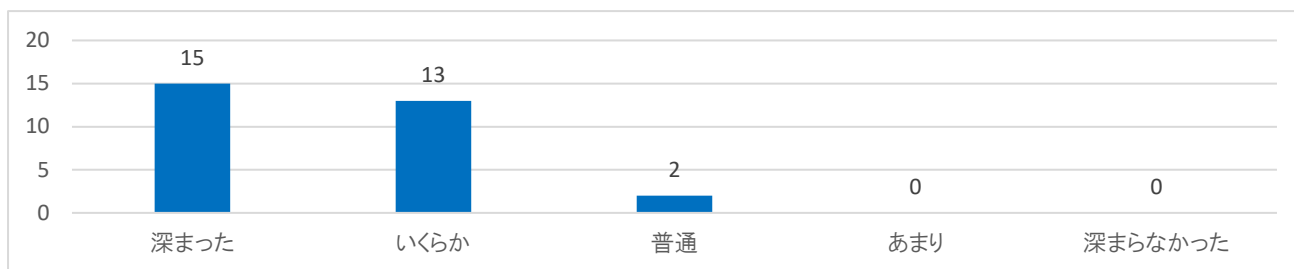
- パネルディスカッションは、もう少しパネリスト一人ひとりが発言できた方がよかったですね。
- 伝える力とはとても難しいものだと思います。
- パネリストたちの参加者目線での創意工夫が参考になりました。
- 実際にガイドをしている方の努力がわかりました。
- 率直な意見を聞くことができた。コーディネーターの方の時間配分が完璧でした。
- 箱根 GP のプレゼンは説得力があった。
- 参加されたジオパークの方々の説明がとても分かりやすく、地域のジオパークに対する愛情を感じました。「見学者は何を求めているか」。見学者目線で説明するのはとても大切だと気付きました。
- ガイドの実践側をお示しいただいた神戸さんの発表は大変参考になりました。一寸木さんの経験からくるガイドの理想像には大変共感しました。ファシリテーター的な立ち位置がよかったなと思いました。（お話やまとめが上手なので）

満足度:75%

ビデオメッセージ 満足 11 やや満足 10 普通 7 やや不満 2 不満 0

- 短時間にわかりやすく各地のジオパークを紹介していた。
- 各メッセージの間に切り替え画像や間があると見やすい。
- 各地域とても素晴らしく、当ジオパークも提供すべきだったと後悔があります。
- 各地域の特色が出ていた。関東圏が古代において海だったのも面白い。
- 短い時間ではありますが、各ジオパークの特色が良く分かり、行ってみたいと思いました。

## Q2 大会を通してジオパークの理解は深まりましたか？



- いろんなガイドがあって参考になりました。
- まだまだジオパークについて知らないことばかりであることを実感しました。
- 「伝える」ことへの理解を深める機会になった。
- 実際にほかのジオパークの方々にお会いして楽しかったです。
- ガイドとしての伝え方も含め、各ジオパーク地域が深掘りし、頑張っていて励みになる。
- 日本の地形、風土に根差した生活文化、西洋文明と交わり、独自の新たな文化がつくられていくのだと学んだ。自然を学ぶ中で、我々が何であるかが少しわかった気がする。
- 伝える力のあるガイドは、ガイドを受ける来訪者が質問をできる場（知りたいと思わせる）を作り、答えられるガイドということも大事だと考えました。
- ジオパークだけではなく、他の事例についても、非常に参考になりました。
- 初めてジオパークを知ろうとした人にはちょっとわかりにくかったかもしれないと思いました。
- 交流の中で深めることができました。
- 浅間山の天明噴火の凄さを感じられた。
- 高校生の取り組み、ガイドの皆さんの工夫など、いろいろな学びがありました。

## Q3 今後開催してほしいテーマ

- ガイドとインタープリターの違い、またその使い分け
- 私のジオパークの魅力
- ジオパーク活動とSDGs
- 伝えるのは「ガイド」以外にはないのだろうか。
- 保全について
- ジオパーク×産業振興、民間の取り組み、パートナーシップ
- ガイドのこと→今回みたいに「伝える」というのはよかったです。しばらくこのテーマで続けていくともありかと思いました。
- ジオツアーをどのように企画されているか。意見交換の場があると面白いかもしれません。

## Q4 その他、大会についての自由感想

- 3年近くこのような大会に接する機会がなかった（コロナ禍）ので新鮮だった。リモートにはない良い雰囲気を感じた。
- 孺恋村長のクローリングメッセージが大局的で、地域のことも思い素晴らしかった。Think global! Act local!
- 日程に少し余裕があるといいですね。
- 駅でのバスの迎えについて、立て札でも良いので一時的に印をつけていてもらえると場所の不安が軽減される。
- コロナ禍より、一歩進められ大会を開催いただきありがとうございました。
- コロナ禍で準備～開催、ありがとうございました。事務局の皆様、大変お疲れ様でした。
- 2日間、大変お世話になりました。まだまだ見足りない、聞き足りないことがあるので、またぜひお邪魔させていただきます。
- コロナ禍や台風接近で、開催まで気が抜けなかったと察します。関東ブロック大会が開催でき、喜ばしく思います。ご準備やオンライン配信など、スタッフの皆様、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。学びの多い関東大会でした。

## ジオツアーについて

### 【コース-1】 回答数：11

伝えるテーマ「安全と環境に配慮して伝える」は伝わったか

よく伝わった・・・9  
だいたい伝わった・・・2  
伝わらなかった・・・0

テーマに基づいたガイドだったか

思った・・・11  
少しは思った・・・0  
思わなかった・・・0

ガイド内容の量について

不足していた・・・0  
適切だった・・・11  
多かった・・・0

ガイド内容の難易度について

適切だった・・・8  
ほぼ適切だった・・・3  
やや難しかった・・・0  
難しかった・・・0

---

### 【コース-2】 回答数：12

伝えるテーマ「科学的な内容を正確に伝える」は伝わったか

よく伝わった・・・7  
だいたい伝わった・・・4  
伝わらなかった・・・1

ガイドの解説内容は分かりやすかったか

よく分かった・・・7  
だいたい分かった・・・5  
分かりにくかった・・・0

ガイド内容の量について

不足していた・・・2  
適切だった・・・9  
多かった・・・1

ガイド内容の難易度について

適切だった・・・7  
ほぼ適切だった・・・4  
やや難しかった・・・0  
難しかった・・・1

---

### 【コース-3】 回答数：4

伝えるテーマ「人と大地とのつながりを伝える」は伝わったか

よく伝わった・・・3  
だいたい伝わった・・・1  
伝わらなかった・・・0

ツアーの途中で火山が育んだ地域の野菜を食べていただきました。それについてどのように感じましたか？

楽しかった・・・3  
少しは楽しかった・・・1  
楽しくなかった・・・0

ガイド内容の量について

不足していた・・・0  
適切だった・・・3  
多かった・・・1

ガイド内容の難易度について

適切だった・・・2  
ほぼ適切だった・・・1  
やや難しかった・・・1  
難しかった・・・0

---

### 【コース-4】 回答数：12

メインテーマ「天明噴火で何が起きたか探る」が分かったか

よく分かった・・・6  
だいたい分かった・・・6  
分からなかった・・・0

グループ編成は参加者の交流に役立ったか

役立った・・・6  
少しは役立った・・・6  
役立たなかった・・・0

「問い」を出す巡検型ツアーについて

楽しかった・・・8  
少しは楽しかった・・・4

「問い」の内容の難易度について

適切だった・・・3  
ほぼ適切だった・・・4  
やや難しかった・・・4  
難しかった・・・1



第7回日本ジオパークネットワーク関東ブロック大会  
実行委員会事務局

〒377-1524 群馬県吾妻郡嬭恋村大字鎌原494-45

E-mail [asama-geo@ebony.plala.or.jp](mailto:asama-geo@ebony.plala.or.jp)

TEL & FAX 0279-82-5566